

若い芽

令和8年3月号

2026年(令和8年)3月19日発行

第40回 卒業証書授与式 式辞

校長 後藤 大輔

この冬は大雪に見舞われる日が多かった札幌も、ようやく日差しの温かさと雪どけの様子から、春が近づいていることを感じられる季節となりました。

今日の佳き日に、本校PTA会長様、並びにパートナー校である小学校の校長先生をはじめ、地域の皆様のご臨席を賜り、そして、ご家族の皆様に見守られながら、札幌市立栄町中学校第40回卒業証書授与式を挙行できますことを、心からうれしく思います。

169名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。皆さんは、数々の思い出を胸に、3年間をともに過ごした仲間とともに、本校を巣立っていかうとしています。先ほど皆さんにお渡しした卒業証書は、皆さんが義務教育を修了したことを表すと同時に、社会に出て活躍するための準備が整ったことを認める、極めて重みのあるものです。これまでの努力の証として、大切にしてほしいと思います。

思い返しますと、皆さんの義務教育期間には、世界的な感染症の流行により、これまで経験したことがないような活動の制限や制約を受けた一方で、その制限の解除後は、今度は制限前の状況にどうやって戻していくかということにも取り組んできた、まさに感染症に翻弄させられた学年だったと言えるように思います。そのような中、皆さんは、冷静にしっかりと現実を受け止め、今できること、行うべきことに確実に取り組んでこられたことと思います。

そんな時代を生きてきた皆さんではありますが、逆に皆さんしか経験できなかったこともたくさんあったのではないのでしょうか。特に、この3年生になっての1年間、皆さんは、普段の学校生活はもちろん、学校祭や開校40周年記念合唱コンクールなどの行事、生徒会活動や部活動など、活動を制約されていた状況から、また活動を復活させ、手本となる姿を後輩たちにしっかりと示すことができていました。皆さんにはこれからも、ピンチの時も自分で希望やチャンスを見つけ出し、**「ピンチをチャンスに変える」**ことができる人間でい続けてもらいたいと思っています。

例えば、皆さんもよく使用する文房具の付箋。これは、とある文具メーカーが強力な接着剤を開発する中で生まれたいわゆる失敗作で、しばらくの間は放置されていたもの

だったのですが、ある時、それを見た別の社員が発想を変えて、貼ったりはがしたりができることが便利な場面もあることに気付き、今や誰もが知る存在となっています。

私たちの生活は、事実と、その事実をどのように受け止めるかという意識、すなわち思い込みによって成り立っているように思います。同じ事実直面しても、「ピンチだ、もうだめだ」と思い詰めるのではなく、発想を変えて「何とかなる、ひょっとしたらチャンスかもしれない」と捉えたら道は拓けてきます。誰かから注意を受けた場合も、「うるさいなあ、どうせ自分にはできない」と考えるのと、「そういう考え方もあるのか。貴重なアドバイスだ」と受け止めるのとでは、その後の結果はまったく異なってきます。現に、皆さんは感染症対策の荒波を見事に乗り越えました。その実績を強みに、皆さんの人生でこれから何度かやってくる高い壁も、発想を変えながら自信をもって立ち向かうことができると乗り越えられると信じています。

結びとなりますが、保護者の皆様、お子様の御卒業、あらためまして心よりお祝い申し上げます。また、義務教育の修了に当たる今日まで、お子様に寄り添い、時に励まし、時に涙しながらも支えてこられたことに心から敬意を表します。そして、入学からの3年間、本校にお寄せいただいた温かいご支援とご協力に対しましても深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

では卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。皆さんの義務教育最後の1年間を一緒に過ごせたこと、心から光栄に思います。いつも気さくに明るく挨拶をしてくれるみなさんが大好きでした。皆さんとのお別れは辛いですが、健康に十分気を付けて、栄町中学校卒業生としての「自信と誇り」を胸に、立派な姿になった皆さんにまた会える日がくることを期待して、私からの式辞といたします。



来賓代表のお祝いの言葉

P T A 会長

令和7年度卒業証書授与式にあたり、PTAを代表いたしまして、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

まず初めに卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。皆さんは3年前の入学式を覚えていますか？少し大きめの制服を着て、緊張した表情でこの体育館に入場してきた皆さんの姿を、私ははっきり覚えています。そしてその姿を見つめる保護者の皆様の期待に満ちた表情も思い出されます。小学校を卒業して、少し大人になった自信と、新しく始まる中学校生活への期待と不安が入り混じり、何とも言えぬ緊張感が漂っていた皆さんには、まだあどけなさが残っていました。しかし、今日の堂々とした姿からは、そんな様子は全く感じられず、この3年間で心も体も大きく成長したことを改めて感じています。3年間という、長いようで短い時間の中で、一人で悩んだこと、友人と意見をぶつけ合ったこと、雪中レクで雪まみれになったこと、猛暑の中で汗をかきながら勉強したことなど、いろいろな思い出があるでしょう。そして、開校40周年を記念した学校祭や合唱コンクールをみんなでやり切った達成感。楽しいことも苦しいことも、たくさん経験したと思います。その一つ一つの経験を積み重ねて、今の皆さんがあります。

まさに、今日は義務教育を終え、また一步大人に近づく節目の日です。

さて、そんな皆さんに、私が伝えたいことは、「夢を持つことの大切さ」です。皆さんもよくご存じのディズニーランドの創設者、ウォルト・ディズニーは、「If you can dream it, you can do it.」「夢見ることができれば、それは実現できる。」という言葉を残しています。逆を言えば、「思い描いたことしか、実現できない」とも言えます。

「夢」は、ただの憧れではなく、目標であり、人生を輝かせる原動力です。夢を実現させようと頑張ることで、困難に立ち向かう勇気が湧き、自分自身を成長させる力となります。夢を実現させる過程では、何度も壁にぶつかり、迷い、失敗することもあるでしょう。でも失敗も「夢へつながる大切な一步」です。その経験が、さらに大きな夢を実現するための糧になります。失敗を恐れず、挑戦し続けてください。そして、立ち止まってしまった時には、家族や仲間、先生方、地域の人々の支えを信じ、また前に進んでください。

保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。この3年間、学校やP T A活動への御理解と御協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。また校長先生をはじめ教職員の皆様、子どもたちの成長を温かく見守り、御指導いただきありがとうございました。さらに、地域の皆様にも、日頃からの御支援に深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、皆さんの未来は無限の可能性に満ちています。どうか自分を信じ夢をもって一歩ずつ前に進んでください。夢を描き挑戦し続ける皆さんの姿は、きっと周りの人にも勇気と希望を与えることでしょう。皆さんの輝かしい未来を心から応援して皆さんの輝かしい未来を心から応援しています。

卒業生代表の言葉

< 3年生 >

やわらかな日差しが降り注ぎ、春の訪れを感じる季節となりました。私達は今日卒業式を迎えることができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。私達のために式を開いてくださり、ありがとうございます。お忙しい中、本日お越しくくださった御来賓の皆様、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

栄町中学校に入学する前、制服の採寸をした時は、まるで中学生の仲間入りをしたかのような気分になったことを思い出します。入学式当日は、期待と不安でドキドキしていたことを今でも鮮明に覚えています。私達の3年間の中学校生活は挑戦の連続だったと感じています。学校祭では今年から保護者参観が可能になり、例年とは違う形での開催で不安な気持ちでしたが、エンディングが盛り上がるよう準備や練習に取り組みました。合唱コンクールはコロナウイルスの影響で実施されない年が続きましたが、1年生の時に再開され、今年は創立40周年記念としてカナモトホールで行われました。特に今年の合唱コンクールは今までとは全く違う雰囲気でもとても緊張しましたが、当日までクラスメイトと協力し、努力を積み重ねてきたおかげで、学年合唱の「ファイト」では見に来てくれていた人に感動を届けられ、大成功を収めることができました。このようなたくさんの挑戦を通して新しいことに挑戦する勇気が身に付いたと思います。

中学校生活で一番の思い出は修学旅行です。東京を訪れて外国人観光客の多さに驚きました。私はもっと英語を頑張らなければならないと、とても焦ったことを覚えています。自主研修では班ごとに話し合いを重ね、研修先や交通手段、時間などを計画しました。実際に行ってみると、出発してからJRはどこなのか、何線に乗ればいいのかなど戸惑ってしまう場面もありましたが、班員と助け合いながら無事に終わることができました。この経験を通し、仲間と協力することの大切さを改めて感じました。修学旅行は私達を成長させてくれた大切で一番の思い出です。

在校生の皆さん、学校生活の中で時に悩んだり、迷ったりしてしまうことがあるかもしれません。自分の周りには必ず仲間がいるはずですよ。そんな時こそ仲間を頼ってください。頼られて嫌だという人はいないと思います。そして、これまで先輩方から受け継いできた伝統を守り、皆さんの新しい伝統を加えていき、さらに素敵な栄町中学校にしていきましょう。

保護者の皆様、私達が楽しく学校生活を送ることができたのは皆様が支えてくださったおかげです。どんな時も温かく見守ってください、ありがとうございます。

教職員の皆様、いつも私達一人ひとりの日々の生活を支えてくださり、ありがとうございました。最後に、在校生の皆さんの更なる御活躍と栄町中学校のますますの御発展を願い、卒業生代表の言葉とさせていただきます。



在校生代表の言葉

< 2年生 >

まだ雪の残る校庭にも、やわらかな日差しが差し込み、春の訪れを感じる季節となりました。本日晴れてこの栄町中学校の卒業式を迎えられた3年生の皆様、御卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

先輩方と過ごした2年間で振り返ると、いつも私達を優しく導いてくださった姿が今でも鮮明に思い浮かびます。私達が入学したばかりの頃、先生方に明るく挨拶する声や、委員会・部活動などで活躍している姿を見て、先輩方の背中をととても大きく感じ、強い憧れを抱きました。

学校祭のステージ発表では、途中で曲やダンスを入れたり、皆が知っているようなものを登場させたりと、よく考えられたシナリオで全校生徒が楽しめるよう工夫されており、私達にとってかけがいのない思い出となりました。今、この瞬間も飾られているステージバックの装飾は、見るたびに先輩方の努力や思いが伝わってきます。

合唱コンクールの練習期間には、学年交流で先輩方の一体感のある合唱にととても感動しました。優しくアドバイスもしてくださり、先輩方のおかげでよりよいものにしようと気持ちが奮い立ちました。当日は3年生の学年合唱「ファイト」の会場に響き渡る圧倒的な歌声が印象に残っています。男子・女子そして全員の声重なった瞬間、会場が一つになり、その迫力と一体感に思わず涙がこみ上げるほど心を揺さぶられました。

部活動では、入部したてで何も分からない時、優しく教えてくださり、真剣に練習に取り組む姿がととても輝いていました。大会では私達後輩を導いてくれました。先輩方は技術だけでなく、努力することの大切さや仲間を思いやる心を教えてくださり、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

生徒会活動の時には、大勢の生徒の前でも凛とした姿で言葉を届ける先輩方の姿に、私もこんな先輩になりたいと強く想いました。今年度後期からは2年生が中心となって活動しています。先輩方に少しでも近づけるよう努力を重ねていきます。

そんな先輩方とも本日でお別れの時を迎えます。寂しい気持ちはありますが、私達も先輩方から教えていただいた数々のことを次の学年へとつないでいきます。

卒業生の皆さんにはこれまでの努力や経験を力に、一歩ずつ歩いていく未来が希望に満ちた輝かしいものとなりますことを心より願っております。最後になりましたが卒業生の皆様の御活躍と御健康をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

